

## 農奴制的經濟制度と資本主義的經濟制度

したがって、農奴制的あるいは賦役制的經濟制度は、つぎの点では資本主義的經濟制度と同様である。すなわち、どちらのばあいにも、働き手は必要労働の生産物をうけとるだけで、剰余労働の生産物は生産手段の所有者に無償で引きわたす。ところが、農奴制的經濟制度はつぎの三つの点で資本主義的經濟制度とちがっている。第一に、農奴制經濟は現物經濟であるが、資本主義經濟は貨幣經濟である。第二に、搾取の道具は、農奴制經濟では、働き手を土地に**緊縛**し、彼らに土地を分与することであるが、資本主義經濟では、働き手を土地から解放することである。農奴主的地主が収入（すなわち剰余生産物）をえるためには、分与地や農具や家畜を保有する農民を自分の土地にもっていなければならない。土地をもたず、馬をもたず、経営をもたない農民は、農奴制的搾取にとっては無用の長物である。ところが、資本家は、収入（利潤）をえるためには、まさに、自由な労働市場で自分の労働力を売ることをよぎなくされている、土地をもたず、経営をもたない、働き手がそこにいなければならない。第三に、土地を分与された農民は、地主に**人身的に従属**していなければならない。なぜなら、農民は、土地を保有しているので、**強制され**なければ、主人のために仕事にいきはしないからである。經濟制度がここでは「經濟外的強制」、農奴制度、法的隷属、不完全な権利、等々を生みだす。これに反して、「理想的な」資本主義は、——所有者とプロレタリアとのあいだの——自由な市場での契約がもっとも完全に自由なことである。

農奴制經營、あるいは——同じことだが——賦役經營のこの經濟的本質をはっきりと会得してはじめて、われわれは雇役の歴史上の地位と意義を理解することができる。雇役は、賦役の端的な直接の遺物である。雇役は、賦役から資本主義への橋渡しである。雇役の本質は、農民が、一部分は貨幣の、一部分は現物の（土地、切り取り地、放牧地、冬季の貸付け等）支払をうけて、**自分の農具で**地主の土地を耕作することにある。分益小作の名で知られている經營形態は、雇役の一変種である。雇役制の地主經營にとっては、どんなに粗悪なものにせよ家畜と農具をもっている、土地を分与された農民が、**必要**である。さらに、この農民が窮乏におしつぶされて、債務奴隷になることが、必要である。自由な雇用ではなくて債務奴隷制が、雇役の欠くことのできない道連れである。地主は、ここでは、貨幣と労働用具の総体とを所有する企業家＝資本家としては現れない。地主は、雇役制度のもとでは、隣人である農民の窮乏を利用して彼らの労働を法外にやすく手にいれる、高利貸として現れる。

第 15 卷 P66~67 『十九世紀末のロシアにおける農業問題』

1908 年（新曆）7 月 1 日

### ポイント

農奴制的經濟制度と資本主義的經濟制度とのちがいは、第一に、農奴制經濟は現物經濟であるが、資本主義經濟は貨幣經濟である。第二に、搾取の道具は、農奴制經濟では、働き手を土地に緊縛し、彼らに土地を分与することであるが、資本主義經濟では、働き手を土地から解放することである。第三に、土地を分与された農民は、地主に人身的に従属していなければならないが、「理想的な」資本主義は、——所有者とプロレタリアとのあいだの——自由な市場での契約がもっとも完全に自由なことである。